

● 2015年（平成27年）7～9月

1 社会・治安情勢

(1) シリア国境における不法侵入者

ア 7月21日、ヨルダン軍関係者は、ラマダン明け大祭の期間中、シリアからヨルダンへの密入国を企図したアラブ国籍の人物を発見し、殺害したと述べた。この事件とは別に、ヨルダン渓谷からヨルダン領内への密入国を企図した2名と国境警備隊員の間で銃撃戦が発生し、密入国企図者1名が負傷した。交戦後、国境警備隊員が付近を捜索したところ、自動小銃と麻薬を発見した（7月22日付ヨルダン・タイムズ紙）。

イ 7月26日、国境警備隊がシリア領からヨルダン領内へ不法侵入を試みた3名の不法侵入者を発見し、逮捕した。逮捕後、国境警備隊は、不法侵入者の所持品の中に武器及び通信機器を発見した（7月27日付ヨルダン・タイムズ紙）。

ウ 7月30日、国境警備隊は、ヨルダンからシリアへ陸路で不法越境を試みた男性1名を逮捕し、関係当局に引き渡した。同31日、ヨルダン軍は、陸路を通じてヨルダン国内に不法に侵入を試みた人物2名を殺害した（7月31日及び8月1日付ヨルダン・タイムズ紙）。

エ 9月1日午前、シリアからヨルダンへ不法に侵入しようとした2名がヨルダン治安当局の対処により1名が死亡、1名が負傷した。ヨルダン軍当局は過去数ヶ月において多くの不法侵入者にしかるべく対処しているが、不法侵入者の多くが密輸売買人ないしテロ分子である。ヨルダン軍は、ヨルダンの国益を害さんとする不法侵入者に対しては厳しく対処するとしている（9月2日付各紙）。

(2) シリアからの飛来の砲弾による負傷等

ア 7月23日、シリアから飛来した砲弾4発がラムサに着弾した。飛来した4発の砲弾のうち3発が不発弾であり、爆発した1発の砲弾も空き地に着弾したため、負傷者等はなかった（7月24日及び25日付ヨルダン・タイムズ紙）。

イ 8月13日、シリアから飛来した砲弾がラムサの民家に着弾し、1家6人が負傷した。6人とも必要な手当を受け、経過は良好。ヨルダン当局の関係者によると、砲弾はシリアで戦う武装勢力の衝突によるものであり、鑑識担当者が負傷者の自宅の壁及びその周囲から発射物の痕跡を発見した（14日及び15日付ヨルダン・タイムズ紙）。

(3) MERSコロナウイルス

ア 8月27日、保健省は、「サウジアラビアにおいて勤務し、最近ヨルダンに入国し、MERSコロナウイルスに感染していると診断された60代の男性が

死亡した。」と発表した。男性は、危篤状態であった。

イ 他の3名は、まだ治療を受けている。内2名は危篤状態であり、1名は白血病を患っている78歳の男性である。他の1名は同ウイルスの感染者と診断された家族との接触により感染した40代の女性である。

ウ 9月19日、保健省は「MERSコロナウイルスに感染し治療を受けていた6名全員が治癒し、退院した。最後の感染者は生後8ヶ月の子供で急性肺炎にかかっていた。(9月20日付ヨルダン・タイムズ紙)。

エ 9月21日、保健省は「MERSコロナウイルスの新たな感染例2件が報告され、本年の感染例は13件となった。13件の内、治癒が6件、死亡例が5件である。」と発表した。同ウイルスに感染していると診断されたのは、以前同ウイルス感染者の近くにいた29歳の医療機関職員及び糖尿病があり血圧に問題のある60歳の男性である(9月21日付ヨルダン・タイムズ紙)

(4) デモ

9月18日、アンマン及び国内各地の都市において、数千人がアルアクサー・モスクに対するイスラエルの行為に抗議するためデモを行った。アンマンのダウタウンにおいては、イスラム行動戦線により組織された数百人が行進した。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

7月8日午後8時頃、邦人旅行者(女性)がアンマン市内の第3サークルからタクシーの後部座席に乗車し、ダウタウンで降りる際、鞆につけてあるポーチから現金を取り出そうとしたところ、運転手がポーチの中に手を突っ込んで現金をわしづかみにした。女性は、運転手から現金を奪い返し、タクシーを降りたが、ポーチに入れていた現金100~150JD程度が不足していることが分かり、警察へ被害届を出した。

3 テロ・爆弾事件発生状況

ヨルダン治安当局は、ヨルダン国内でテロ攻撃を計画していたイランの Bait al-Maqdis 団のメンバーでイラク及びノルウェー国籍を有する男を逮捕した。治安当局は、同人を逮捕した後、ヨルダン北部(ジェラシュ県、サグラ・アスフル地区)に隠されていた大量の高性能爆薬45kgを押収した(7月5日付当地ラーイ紙)。

4 誘拐・脅迫事件発生情報

なし。

5 日本企業の安全に関わる諸問題

なし。

(了)